

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200278		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホームみのかも		
所在地	岐阜県美濃加茂市下米田町東柄井 66-1		
自己評価作成日	平成25年11月25日	評価結果市町村受理日	平成26年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiyosyoCd=2171200278-008PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分の家で過ごしているような安心感とともにいつでも自分の思うように過ごしていただけるよう職員が常に対応をしています。大勢でにぎやかに楽しく過ごす時間もあれば一人でつろぐ時間もあります。今まで行っていた趣味の延長。毎日日課としていた活動などを継続できるよう個々に支援をしています。同一敷地内に法人の施設があり大掛かりな行事も行うことが可能で、夏祭りや流しそめんなど幅広く楽しんでいただいています。まわりは田んぼや畑が多く利用者の方が過ごしてきた暮らし方がまだ残っており、散歩にできれば季節の作り物や馴染みのある景色があり、落ち着いて過ごしていただけます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10年を過ぎ、地域の一員として、住民や小学生たちと、日々楽しい交流を行っている。また、地域の公民館活動や町内清掃、分別回収等では、利用者も参加し、地域住民として、自然に溶け込んでいる。重度化や終末期の対応は、法人内の「連携会議」で、本人の状態を段階的に話し合い、他施設へ移行できる体制を整えている。災害時に支援が得られるように、地元企業と協定を結び、さらに、職員間の連絡は、メールでの一斉送信をシステム化し、緊急時や防災体制に備えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念とグループホームの理念とを全職員が理解をし、同じ目的を持って業務にあたっている。事業所の見やすい場所に提示をし常に意識を持っている	利用者本位の気持ちを優先し、日々のケアの提供と、地域とのつながりを大切にしたい。5つの理念を、所内に掲示し、全職員で共有をしている。利用者が、これまで過ごしてきた生き方を尊重し、安心のできる暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出た際の挨拶や日常会話などを通して名前や顔を知ってもらうよう心がけている。地域の行事にも努めて参加をし、地域の一員であることを常に自覚している。	地域のゴミ分別回収やペットボトルの回収は、利用者と共にやっている。地元のしめ縄づくりや高齢者のゲートボール大会へ招かれるなど、地域の一員として日常的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の支援センターが活動を行っているが当ホームとしても運営会議を通して地域の一人暮らしの高齢者と交流を深めたいと思っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族に出しているお便りを配布することで行事の内容やホーム内の活動をお知らせし、それについての助言を得ている。外部評価や満足度アンケートの結果を報告し、ホームのサービスの提供の様子を理解していただいている。	運営推進会議は、行政・地域関係者・家族が参加し、隔月に開いている。行事や活動内容を報告して、助言を得ている。インフルエンザや防災対策、医療支援等の課題を検討し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月利用者の入退所、待機者の状況を報告し、実情を理解していただき、待機者の紹介や市内の感染症などに関する情報などをもらっている。	行政とは、ネットワーク会議や事例交換会等の各種会議へ出席し、連携をしている。担当者とは、医療処置の伴う支援の課題や介護報酬等について、相談や情報を交換するなど、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠はもちろんベッドの柵や言葉なども拘束にあたる事を理解し、利用者に対して拘束をしない事を前提に業務にあたっている	身体拘束は一切しないを、原則としている。やむを得ない場合は、行動パターンや本人の立場を理解し、代替えを考え、拘束をしないケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員が研修の中で虐待防止について学ぶ機会を持ちいかなる場合でも行わないことを実践している。		

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護についての研修を受講している。また、法人内の研修でも権利擁護・後見人制度についての内容で全員が受講できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の内容については入所の際にご納得いただけるよう説明を行っている。法改正があった場合もその都度説明をし契約書の取り直しを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会をもち意見、要望を頂く機会をもっている。その他毎月の状況報告書にて返信欄を設けている。毎年満足度アンケートを実施し回答を通して意見や苦情、要望を頂いている	家族アンケートや個別状況報告書の通信欄、面会時、家族会などで意見を聴く機会を設けている。職員の言葉かけの改善や、様々な場面での意見、要望なども速やかに対処している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などを通して意見が出た場合、出来る範囲で要望や意見を取り上げてもらっている	職員会議で、意見・提案を話し合っている。天井の掃除方法や湿度管理の提案があり、改善につなげている。また、管理者と、個人面談の仕組みもあり、働きやすい環境づくりに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で常にスキルアップを目指し資格取得への取り組みがある。成果に対しての手当てや時間外勤務、勤勉手当など意欲を持って勤務できる環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、中堅研修、リーダー研修と勤務年数や実力に合わせて研修や勉強会が行われている。法人外の研修にも参加ができるよう積極的な働きかけがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月ネットワーク会議が開かれ、市内の各事業所が参加し情報を交換している。事例検討会や医師による勉強会、講演会が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前面接で家族や本人の抱えている問題や不安、要望などをしっかりと把握し、情報を職員が共有することで入所後の不安を解消するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立った視点で話しを聞き、どのようにケアを行っていくかを説明し安心していただくとともに、実践の様子を毎月報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族にとってまず何が必要であるかを認識し、優先的に行うサービスや段階を踏んで行うサービスを必要に応じて提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は常に対等の立場で接し、介護する側とされる側にならないよう自然な形でケアができるよう心がけている。また利用者の力を引き出せるよう最小限の介助を行うよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後も家族とのかかわりが切れないう家族にしかできないことを理解していただき利用者を一緒に支えあうことができるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントなどで得た情報を活かしきつかけの喫茶店にお連れしたり、年賀状や家族、知人から届いた葉書、手紙などに返事をお出しするよう支援を行っている	行きつけの喫茶店や美容院、商店などへ出かけ、馴染みの関係が継続できるように支援をしている。近所の人や学校の同級生が訪れたり、また希望者で、恒例の蔵出し新酒を味わいに出かけている。	馴染みの人や場に加え、地域住民や併設の利用者とも、さらに馴染みの関係が広がるように期待をしたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外食や外出など気の合う利用者同士を一緒にするなど楽しむが増す配慮をし、居室に閉じこもりがちな利用者にはおやつや、レクリエーションの声かけをし、一緒に過ごす時間を提供している。洗濯物をたたむのを手伝ったりと利用者同士も助け合っている姿がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の環境や生活にスムーズに移行できるよう情報の提供や相談支援に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の様子から好きなことや楽しいと思うことなどを探っている。毎日の服装や食べたいもの、いきたいところなどコミュニケーションの会話の中からも情報を収集し、意向に沿うよう努めている。	日々の会話や様子などから、思いや意向を把握し、一人ひとりの理解に努めている。花の好きな人は、居室に鉢植えを置き、編み物の得意な人は、毛糸を持ち込んでもらい、思いに沿った暮らし方を支えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントのほかに毎日の会話や様子から新しい情報を得よう努めている。面会時にはできる限りご家族から話を聞き、毎日の生活のケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日生活を送るいろいろな場面でできることを探し提供することで思いがない発見がある。できる限り多方面にわたり家事仕事やレクリエーションを行う中で一緒に活動することを提供し、様子を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時にはできる限りご家族も参加をしていただき会議を開き、利用者の心身の現状、あたらな問題などを話し合い適したプランや希望に添ったプランの作成に努めている	毎月、支援経過を全職員でモニタリングし、現状に合った介護計画を作成している。状態によっては、主治医や理学療法士の意見を盛り込んでいる。家族を、ケアプラン会議へ招いて、意見・要望を聴き取り、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子から気づきや考察、ケアプランの実施の様子を記録している。その記録はいつでもみることができ情報の共有ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズができたときどのように対応するかを職員で話しあいいかに実現するかを検討し実現に向けて取り組んでいる		

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員で対応できない部分は市のボランティアの協力を得て活動をおこなっている。園芸のボランティアにより花を植え替えたり、余暇を楽しむためマジックや歌を見せてもらうこともある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から受診をしている医療機関にも引き続き受診を継続できるような情報を提供している。	約半数の人が、従前のかかりつけ医を選択している。通院は、家族受診を基本とし、医療情報は、家族と共有している。協力医の訪問診療は、月に2回あり、安心な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の様子から少しの変化にも注意を払い、その情報を職員全員に伝え様子を観察するようにしている。必要であれば家族に連絡を取り受診の以来をしたり主治医に情報を伝え適切に対応をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった状態の把握に努め退院や退所を見極め病院とも連携をとりながら家族が安心できる情報を伝えるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際にホームでできるケアを説明し、状態に応じた施設への紹介やサービスの紹介を行い適切に対処している	重度化や終末期のあり方を、早い段階から本人・家族に説明をしている。主治医の協力と、家族の付き添いを条件に、終末期の支援は可能としている。医療依存度の高い人は、他の施設を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の研修以外でも項目に応じた勉強会が開かれ参加をしている。毎年、救命救急の講習に参加をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施。1回は地域の自治体や企業、消防署も参加をした防災訓練を行っており方が一の場合に備えて協力体制が整っている	年に2回、防災訓練を行っている。1回は、消防署・自治会・地元企業と合同で実施し、夜間想定や避難経路の確認をしている。緊急連絡網へは、パソコンで一斉通報もでき、地域との協力体制を築いている。	備蓄は予算化され、実施するばかりとなっている。福祉拠点としての、さらなる充実と、地域防災のかなめとなる位置付けに期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を理解した上で適切に対応をしている。特にトイレ誘導はプライバシーを損ねないように注意をしている。職員間の会話からも個人に関する内容が漏れないよう利用者の前で申し送りや連絡事項を行わないよう配慮をしている	日常的な暮らしの中で、言葉や態度で、誇りを傷つけないよう対応をしている。居室の立ち入りに配慮をしたり、排泄時や入浴時などの声かけは、耳元でささやき、その人が好む対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのような場合でも利用者に聞くことを徹底している。またどちらかを選んだりできるような環境作りにこころがけ自分で決めることを支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に決めていないが近所から柿をいただいらむいて干し柿を作ったり天気なら散歩に行き雨なら中で何かをする。思いつきや利用者の希望で喫茶店に行く話が出ると出かけたりと利用者のしたいことを優先に決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪をとく為洗面所には全員が櫛やブラシを用意している。希望により化粧水やクリームを設置している利用者もみえ、なくなったら買い物に行ったりご家族が買ってきてくれる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、盛り付けなど出来る仕事を利用者と一緒に行っている。食事の際は〇〇さんが切ってくれたね。〇〇さんがお皿にわけてくれたね、などと会話をしながら食事をしている	利用者は、食材の買い出しや食卓の準備、テーブル拭きや下膳など、できることに関わっている。食事の際は、おしゃべりしながら、和やかに食事を楽しんでいる。おやつも一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重表を見合わせながら増減の状態に注意をしながら食事量を調整している。栄養士の立てた献立を利用し栄養のバランスや水分の摂取利用を管理している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後と夕食後には口腔ケアを実施し、状態に応じて介助や見守り、声掛けを行っている。訪問歯科をお勧めし、受けている利用者もみえる。週に一度はポリデントで義歯の消毒殺菌を行っている。		

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間や状態は記録しその後の排泄の援助に活かしている。できる限り紙パンツやパットの使用を少なくし、トイレで排泄ができるよう個別に誘導を行っている。	個別に、排泄チェックを細かく行い、早めのトイレ誘導で、紙パンツなどの費用を削減している。職員のかまめな援助で、トイレでの排泄ができ、自立につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日ごろの排便の状態を把握し水分を多めにとったり便通により食べ物や運動をこころがけるよう職員に周知する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	今のところ夜間入浴の希望者はいないが対応の用意はある。一応入浴日は決まっているが利用者の希望や状態によって柔軟に対応をしている	入浴は、週に3回となっている。身体の状態により、毎日の入浴も可能であり、希望者には、夜間の入浴に応じている。季節を味わえる、ゆず湯など、入浴が楽しみとなるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきの悪い方には温かい飲み物や昼間の活動などを考慮し安眠の確保に努めている。居室の明るさなど個人で好みがあるためどの職員でも同じ対応ができるよう情報を共有し対応に当たっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳と薬剤情報は処方たびに張替えと入れ替えを行い常に最新の情報がみられるよう管理している。新しい薬が処方された場合や突発的に処方された薬についても服用した際の様子や状態を記録し医師に情報の提供を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや入所時の情報でしたいことや好きな事を把握し家族の協力もえながら出来る限り実現するよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は毎日の日課としており季節の外出も行っている。月に一度の外食やお茶を楽しむため喫茶店に出かけている。その他墓参りなどには、家族に連絡をし一緒に出かけるよう支援をしている	周辺を、車椅子の人やゆっくり歩く人を、グループに分け、日々散歩をしている。個別に買い物や喫茶店へ職員が同行し、季節ごとの花見や紅葉見物、薔薇公園などへ、計画的な外出も支援している。	

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として現金の管理は行っていないが家族の了解を得、小遣い程度の金額を持つ事を支援し管理が出来ない利用者は預かり買い物に使ったり喫茶店に出かけるときに遣っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末には年賀状をだしたり手紙が来たときや宅配便が届いたときは電話でお礼を伝えるよう声を掛け実践している。用があるときや電話をしたいとの訴えがあるときはご家族に了解を得ながらいつでもかけることが出来るよう心がけている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には季節の作品をせいさくしてかざっている。居間の壁にも季節を感じる作品を掲示し季節ごとに交換している	共用空間の天井は吹き抜けで、ゆったり感がある。日常は、利用者同士で席に誘い合い、居心地良く過ごしている。壁面には、利用者の描いた絵画や書道、貼り絵などを掲示し、季節感のある空間づくりを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で本を読んだり横になるなど好きな時間や状態によって居室で過ごされている。居間でも気に入りの場所はその方専用にするなど特に問題がない限り好きな場所で過ごしていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所する際に説明をし、出来る限り今まで使っていた家具や衣類、身の回りのものをもってきていただいている。居室にベッドが備えられているが状態によって畳が好ましい方には布団で対応している	居室内のクローゼットやベッド、洗面台は備え付けである。馴染みの整理ダンスや椅子、犬のぬいぐるみなどを持ち込み、使いやすく配置をし、居心地がよく、安心して過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ゲームやパズル、本などはいつでも使ったり読んだりできるよう整えてある。洗濯物を干しやすいよう低くしたり座ってできるような椅子を用意するなど仕事をしやすいよう工夫をし、できる限り参加していただいている		